

移り変わる島四国へんろ

香川大学 経済学部 教授 大賀睦夫

移り変わる島四国へんろ

香川大学瀬戸内圏研究センター
香川大学経済学部
大賀睦夫

経済学部の大賀と申します。最初に自己紹介をさせていただきたいと思います。私はもともと遍路の専門家ではありません。専門は政治学でしたが、10 数年前に、経済学部にはツーリズムコースできまして、その時に設立の趣旨に賛同してツーリズムコースの教員になりました。これをきっかけに観光と政治などの科目を作ったりしました。また、学生を

観光の現場に連れて行こうということになり、いろいろと考えたところ、香川や四国にふさわしいのは「やはり遍路ではないか」と考えるようになりました。以来、遍路を「スピリチュアル・ツーリズム」と捉えて研究してまいりました。

そうということで、今日は小豆島遍路の紹介をさせていただこうと思います。タイトルはここにありますように「移り変わる島四国へんろ」にいたしました。その理由ですが、小豆島遍路の最盛期と言うと、1970 年代頃の高度成長の時です。この頃は年間 5 万人ぐらいのお遍路さんが来ていたと言われています。それが現在では 1/5 ぐらい、1 万人ほどに減っているということで、この数年、遍路関係者が「危機だ」と言ってきました。「これから果してどうなるのか」というような悲観的な見通しが語られたりもしております。けれども、小豆島は大変魅力的な島なので、「何かが変われば再生して行くのではないか」とも思いますし、またそのような動きもあるようです。今日は、そういったところを紹介させていただこうと思います。

今日は 3 つのテーマでお話をさせていただこうと思っています。最初に概要です。小豆島遍路の概要をお話して、それから歴史。そして最近の動向。この 3 つでお話をさせていただこうと思います。

概要ですが、最初に小豆島八十八カ所霊場の地理的条件があります。この地図は絵地図です。実際はこのように見えなくて、Google で見ますと、ただの緑の島ですけれども、ここでは地理的特徴を誇張して描いています。

見ると分かりますように、右上が寒霞溪です。この辺りが大変荒々しい岩山で、他にもその南の辺りとかが荒々しいですね。小豆

1. 小豆島八十八カ所霊場の地理的条件：男性性と女性性を兼ね備えた島



島は火山の島なので、小豆島の内側を見ると、非常に急峻な岩山なのです。これは男性的な様相というように言えるかと思います。そして、そのような岩山に行って、今度は逆に外側を見ると、そこには大変穏やかな瀬戸内海があって、非常に女性的な風景が展開しています。このように「小豆島は男性性と女性性を兼ね備えた島である」と言えます。私は小豆島遍路を考える場合に、「この2つの要素があるということが、成立条件である」と思っています。

と言いますのも、心理学では「人格形成というのは男性性と女性性の統合である」ということを言うわけですね。通俗的な言い方をすれば、「強くなければ生きていけないし、優しくなければ生きていく資格がない」と言う言葉に象徴されています。ですから、「遍路は、究極的に人格形成を目指すもので、その場合には男性性と女性性の両方を育むような条件が必要なのだろう」と思っています。そういうものが小豆島にはあると思います。それはやはり四国にもあると思うのです。ですから、いろいろな人が四国に來られて、「四国は少し違う」と言うのですね。なんとと言いますか、「精神性というものが四国の特徴かな」と感じるわけです。小豆島にもそういうものがあると思います。ですから、急峻な岩山が修験道の業場になってきたのでしょう。その修験道がずっと続いて、現代の遍路に繋がってきているわけです。

これは数年前の碁石山という第2番札所の柴燈護摩の写真です。密教で護摩を焚きますけれども、お堂の中で行う場合は護摩壇で火を燃やしますが、このように野外で燃やす護摩もあります。ここに全国からお遍路さんがやって来ます。子供達もこのような山伏の恰好をしたりしていますね。このお子さん達は

地元ではなくて、兵庫県から来たと言っていました。このような修験道の行事は今も小豆島でいくつかのお寺や山岳霊場で行われています。先ほども言いましたように、こういうものは男性的な要素で、一方、海を眺めると癒しの風景があるということですね。「瀬戸内海は日本で最初に国立公園になった所で、その中心が小豆島、寒霞溪であった」と言われています。そのような風景がお遍路に繋がっているようです。

少し札所の紹介をさせていただきますと、寺院が30です。お参りする所が88カ所ありますが、寺院が30なので88に足りませんね。そこで、山岳霊場が13あります。ここはかつて修験道の行場だった所なのです。現在では寺院の奥の院になっている所が多いです。それでも足りないので、堂庵が45あるということになっています。

小豆島は写し霊場と言われています。四国を本四国と言っており、その本四国をいろいろ

1-2. 小豆島の男性性＝修験道の歴史



2. 霊場の概要: 寺院30、山岳霊場13、堂庵45



なところに写したと言われています。その写し霊場の中でも有名なものが小豆島と、知多半島にある知多四国です。それから、福岡県の篠栗四国ですね。この3つが江戸時代の終わり頃には成立していました。その他にも日本各地にいろいろな写し霊場がありますが、小豆島は写し霊場といっても、写しているのはごく骨格的な部分だけなのです。だから、88の霊場があつて、そこを廻るというコンセプトは写していますけれども、非常に強い独自性があります。かつて霊場会の会長をされた方の話を聞きましたけれども、「四国が本四国と言っているけれども、実は小豆島の方が早かったのだ。そういう言い伝えがある」とおっしゃっていました。だから、「あちらは本四国と言っているけれども、小豆島は元四国なのですよ」という対抗意識があるぐらいです。そのような霊場が小豆島の霊場です。

この図は、小豆島八十八ヵ所霊場曼荼羅です。お大師様が曼荼羅の中心におられます。お大師様と15のご本尊が描かれています。一番多いのが阿弥陀如来で、20ヵ所が阿弥陀如来を祀っています。それから薬師如来が15。この構成も少し本四国と違います。それから本四国にない仏様もいらっしゃいます。弁財天ですね。それと神変大菩薩(役の行者)



ですね。これは小豆島独自でして、そういったことでも少し本四国と違います。小豆島の88ヶ所を廻ると、これらの仏様のご加護を受けることができるわけで、信仰のある人にとって非常にありがたい霊場ということになっています。

それから遍路は民衆信仰ですね。もちろんお寺さんといいますか、霊場会がコントロールしているところがあるのですが、基本的には民衆宗教、民衆信仰でありまして、そういった意味では、「庶民の願いを叶える」と言うことが非常に大きな要素としてあるわけです。ご利益があるからそこへ行くという動機があります。昔から「おかげをいただく」とよく言われてきました。例えば左側の写真は松風庵という堂庵なのですが、そこに「当庵にて眼病全快」、ここで見えなかった目が開きましたと、このような絵馬が掲げ



てあります。大正7年と書かれているので、ちょうど100年前のようですね。

こちらは福田庵に奉納されているものですが、車椅子ですね。リング箱のようなものに車を付けただけの非常に粗末なものです。ここに明治28年と書かれています。明治時代にこのような車椅子に乗って引っ張ってもらい、お参りをされていた人もいらっしゃいました。そして、この人が突然歩けるようになったということのようです。突然軽くなったので、引っ張っている人が後ろを振り向くと、歩いていたという霊験ですね。霊験譚がいろいろあり

ます。本四国もそうですけれども、ギブスとか、松葉杖などがたくさん奉納されている所が小豆島にもあります。そのようなご利益がある所だということでしょうね。

霊験ということ言うと、これは三都半島の山の中にある石碑ですけれども、ここに「修業大師と小西庄助翁御出合いの霊跡」と彫ってあります。先達さんですけれども、「ここでお大師様と会いました」と言うのです。かつてはここにもお堂が建っていたそうですけれども、それもずいぶん昔の話で、朽ちてここに石碑が建っています。このような霊験の話もいろいろとあります。

それから、小豆島は「本当に神秘の島だ」と感じるものの一つですけれども、夏至観音というものがあります。これは1番札所の洞雲山です。左側の所にお参りをする場所を作っています。そこの左側の壁にこのような観音様が現れるのですね。通常、ここは日が当たらない所なのですけれども、6月の1か月間、夏至の時に光が入って来ます。そして、

だんだん下から光が当たってきて、杖を持った観音菩薩が少し首をかしげたような姿で出て来られます。私もそこに行って見ましたけれども、いろいろなタイミングが合わないと、このように綺麗な姿にならないですね。私が見た時は少しふくよかな観音様が出てくれました。2時間か3時間ぐらいで、下から少しずつ現れるのですけれども、このように完成すると1、2分で消えてしまいます。ここは洞雲山ですけれども、管理は観音寺です。観音様が出て来られるということが分かったのは、それほど昔ではなくて30年ぐらい前です。記念撮影をしていた写真に写っていたということで評判になったとのこと。このようにいろいろと霊験がある島なのです。もちろん、奇跡はめったに起きないので、多くのお遍路さんがお遍路をする理由というのは、やはり救いがある、「人生はいろいろと苦勞の連続ですけれども、このようにお参りすると救いがある」と言うことで多くの方が来られるわけ。その救いというのは、仏教的な救いであって、遍路に来ると十善戒だとか、六波羅蜜というものにすがって再生していくのです。

5. ご利益・霊験譚その2



6. ご利益・霊験その3 洞雲山毘沙門堂、夏至観音



ですから、遍路の世界はお大師様の慈悲に溢れているのだと、そのあたりのところを萩原井泉水という有名な俳人がこのように紹介しています。この方も小豆島遍路をされた方で、大正時代の文章です。「お遍路さんは到るところで愛せられる。また恵まれる。お遍路さん同士もまたお互いに遍路であるという事のために信頼する。また、扶助する。争闘と欺瞞とに満ちたこの社会の中であって、信頼と扶助とに心を合わせて生き得る事ほど美しい事が他にあるであろうか。この島の春を賑わすお遍路さんは絵としてのみ美しいのではない、彼らが愛し合い信じ合うことに生きるが故に美しいのである。私達は皆、人生の遍路である。私は思う、私達はこれのお遍路さんに学ばねばならない。しかして、人間のことがお遍路さんの心を心とするまでに至らなくとも、私達はまずお遍路さんの信と愛とを以って人生を歩きたいものである」と書かれております。これが戦前の女学校の国語の教科書に載った文章だそうです。そのような霊場であるということです。ということで、小豆島遍路の概要を少し紹介させていただきました。

続いて歴史に移りたいと思います。小豆島遍路の始まりがいつかということです。もちろん信仰としてはお大師様が始められたということで、「弘法大師が都に行かれる途中に小豆島に立ち寄られたのだ」と言った伝承があります。これは事実として確認されていないけれども、信仰としてはそのような話があります。ただ、歴史的には貞享3年、1886年に小豆島遍路ができたという記録があります。これは小豆郡誌という資料に出てくるのですけれども、これも大正時代に書かれたものなので、果たしてそうかどうかということがよく分かっていません。江戸時代に真念さんがガイドブックを書いていますけれども、ちょうどその頃です。ですから、既に四国遍路が賑わっており、「そのようなものを小豆島にも作ろう」と言うことになったと十分考えられます。ただ確実な資料ということですと、19世紀の半ばに暁鐘成さんが小豆嶋名所圖會というガイドブックを出しています。ここに88カ所全ての霊場が紹介されております。この文章の特徴を見ますと、一つは信仰ですね。仏様の紹介が非常に詳しくなされております。それともう一つは景色が素晴らしいということで、観光的な要素も書かれています。ですから、江戸時代から観光の要素があったということだと思います。例えば、島の南の方の札所からの様子について次のように書かれております。「境内より向こうを望めば、煙波渺茫として海舶の白帆は飛花と疑われ、海士の釣り船は落ち葉に似たり。阿波の山々より讃岐の峰々列なりて、山水の美観言語に絶せり」。そし

7. 再生の島遍路: 萩原井泉水による小豆島遍路の理念

- お遍路さんは到るところで愛せられる。また、恵まれる。お遍路さん同士もまたお互いに遍路であるという事のために信頼する、また、扶助する。
- 争闘と欺瞞とに満ちたこの社会の中であって、信頼と扶助とに心を合わせて生き得る事ほど美しい事が他にあるであろうか。この島の春をにぎわすお遍路さんは絵としてのみ美しいのではない、彼らが愛し合い信じあう事に生きるが故に美しいのである。
- 私達は皆、人生の遍路である。…私は思う、私達はこれのお遍路さんに学ばねばならない。しかして、人間のことがお遍路さんの心を心とするまでに至らなくとも、私達はまずお遍路さんの信と愛とを以って人生を歩きたいものである。

8. 小豆島遍路のはじまり: 江戸時代

- はじまりは貞享3年(1686) 寺院のみには其の数に満たざりしをもて…
- 暁鐘成『小豆嶋名所圖會』(1850年代)
- 信仰と眺望: 境内より向こうを望めば、煙波渺茫として海舶の白帆は飛花と疑われ、海士の釣り船は落ち葉に似たり。阿波の山々より讃岐の峰々列なりて、山水の美観言語に絶せり。



て、このような絵まで描かれています。ここはたぶん池田の西の滝あたりからの風景だと思います。向こうが屋島ですね。その横が五色台の方ですね。土庄と、いわゆるエンジェルロードも見えます。これは余島です。今はこの写真のような感じです。ということで、江戸時代の小豆島遍路は、信仰と観光だったようです。

そして、一大転機が明治維新にやってきました。日本は長らく神仏習合でした。神と仏は一つのものというように考えられてきましたけれども、明治になって、「それは駄目だ」ということになりました。これにより札所も変わりました。江戸時代は神社と別当寺が霊場でした。別当寺というのは神社を管理するお寺です。別当寺と言ったり、神宮寺と

言ったりします。6つの八幡宮が小豆島にあって、ここが札所だったのです。それから5つの別当寺と天満宮、滝之宮も廃止になりました。そのような八幡宮にもご本尊がおられましたけれども、近くのお寺に行くとか、堂庵を作ってお祭りするというようなことになって、非常に大きく変わりました。これは小豆島遍路にとって大変な打撃でした。今も神仏習合のなごりがあります。この写真は江洞窟に行くところです。ここをとお参りをするのですが、鳥居がありますね。仏教のお参りをするのに、このような鳥居をとお参りをします。ここは碁石山です。ここも鳥居をとお参りをします。ただ小豆島ではそれほどひどい廃仏毀釈は起きなかったようです。いずれにしても、そのような神社系の札所が廃止になって、お遍路さんもずいぶん減りました。

そこで、明治の終わりに新しく霊場会を作ろうということになり、大正2年に小豆島霊場会ができました。そして、信者さんの獲得に力を入れました。とりわけ山陰地方、鳥取や島根、さらに兵庫の日本海側に力を入れました。そのような所は、1月、2月はまだ雪に埋もれて畑仕事もできないので、「小豆島にお参りにでも来ませんか」と言うことですね。そういう所で護摩法要などを熱心にやって、信者さん達のグループができました。そのような人達が来るようになって、大正時代からまたかなり賑わったそうです。

これは昭和初期の遍路の様子です。当時の小豆島遍路の写真はこれぐらいしかありません。この白黒の写真の場所がカラー写真の今ですけれども、少し様子が違いますね。昔は木を薪に使っていたので、結構木を切っていたみたいです。それと、塩づくりのために木を切ったことも関係していると思います。それから、小豆島というと麦ですね。たぶんこれは麦畑だと思います。今、ここは牧草を作っています。

9. 神仏分離と小豆島遍路

- 江戸時代は神社と別当寺が霊場だった。6八幡宮、5別当寺、天満宮、滝の宮の13カ所。
- 明治時代に神仏分離により13霊場が廃止。廃仏毀釈の受難時代。
- 大正時代に小豆島八十八カ所霊場会誕生。山陰地方の信者開拓。



10. 昭和初期の小豆島遍路(1) 白衣なし



ここは江洞窟です。昔はこのような満潮になると水しぶきがかかるような所ですね。今はコンクリートで固めてしまっています。

それから、道の悪い所があったので船も部分的に利用していました。写真は「二十四の瞳」の田ノ浦半島です。非常に道が悪いので、このように苗羽（のうま）から田ノ浦の方に船で行きます。これはお遍路さん用の船ではなくて、醤油樽を運ぶ船を利用していたようです。それからもう1ヶ所、三都半島でも船を使っていたようです。

ここは清滝山ですね。

これはどこかよく分かりませんが、たぶん寒霞溪の観光をしているのではないかと思います。

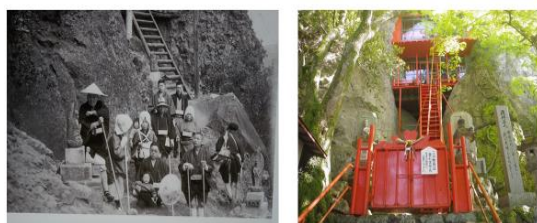
11. 昭和初期の小豆島遍路(2)



12. 昭和初期の小豆島遍路(3)舟の利用



13. 昭和初期の小豆島遍路(4)清滝山



14. 昭和初期の小豆島遍路(5)



昭和初期の娘遍路です。通過儀礼としての遍路が行われていました。傘と杖は今も変わりません。写真の中の傘には書いていませんが、今は「迷故三界城、悟故十方空」とか、そのような字を書いておきます。それと、先ほども言いましたが、お遍路さんの白衣ですけれども、このような人達は白衣を着ていないのです。白衣を着るようになったのも、戦後に霊場会が指導したようです。

15. 昭和初期の娘遍路: 通過儀礼としての遍路、菅笠に「迷故三界城...」、白衣なし



ここから戦後の話になります。戦時中もけっこうお遍路さんがいたらしいのですが、小豆島遍路が最も賑わったのは1970年代です。多数の大師講、巡拝団があったと言われてい
ます。今も小豆島のお寺に行きますと、写真
のように当時の巡拝団の存在を知ることが
できます。このように鳥取不動産や播州真心

16. 戦後の小豆島 遍路

小豆島遍路がもつとも賑わった
のは1970年代

多数の大師講、巡拝団あり。
会員2000人の団体もあった。

多くの巡拝団が高齢化、消滅、また
は規模縮小



会、加古川巡拝団などいろいろな巡拝団がありました。賑わった 1970 年代ですと、会員 2 千人というような団体もあって、「2 千人が一度に小豆島に来ると泊ることができないので、第 1 陣が 5 百人やって来て、翌日第 2 陣がやって来るというように、それぐらい賑わったことがありました」と言うようなことを小豆島のお坊さんが語っておられます。ところが、今はこれらの巡拝団が高齢化してほとんど無くなりました。最盛期は、公認の団体で 500 ぐら
いはあったそうです。これが 100 以上も無くなるし、残っているものも、ほとんどが少人数
の巡拝団のみという状況です。これがお遍路さんの減少に繋がっているのです。

そのように大師講のような巡拝団を作ってお参りするというスタイルは消滅しかかって
いますけれども、今、新しいタイプの巡拝が起こっています。例えば、写真の「大師を偲ぶ
遍路行」というようなものです。4 月 16 日から 1 週間かけて歩き遍路をするというイベン
トがあるのですけれども。これは、もともと
小豆島菩提同心会という歩き遍路をされる
熱心なお坊さんがいらっしゃって、その方が
仲間を誘って、「歩こうじゃあないか」と言っ
て、それが口コミでどんどんどんどん広がっ
て、全国から巡拝者が来るようになりました。昨年、私もこれに参加しました。北海道
から来た人、沖縄から来た人もいました。で

17. 小豆島遍路の新傾向: 大師を偲ぶ遍路行 (小豆島菩提同心会主催)



すから、昔は各地で巡拝団を作って団体で来ていた。ところが、今は「イベントがあるので
全国から集まる」といったような形に変わってきました。

これを少し紹介します。まず、霊場会で集まって授戒を受けます。それから、皆でお参り
して、このように歩いて行きます。小豆島は車が少ないので、道の真ん中を歩いても大丈夫
です。このような手すりや鎖のある山岳霊場ですけれども、こういった所があるから非日常
的経験ができて面白いと思います。崖に岩の洞窟があつて、ここでお参りをします。このよ
うな崖にお堂を作っています。これは下に降りてきたところです。



これは2日目です。小豆島の北側が写っており、向こう側が岡山県になります。それからずっと海沿いに歩いて、ここは山之観音という所です。そして、次は福田の雲海寺から見た風景です。姫路からの船が着く所です。



ここは坂手の方です。碁石山、大変景色が素晴らしい所です。その近くのこの風景も大変美しい。讃岐10景のひとつ。それから古江庵、これは二十四の瞳のロケなどの映画の舞台にもなった所です。それから、寒霞溪の方に石門洞という山岳霊場があります。



ここ是三都半島です。小豆島はこのような真柏が目立ちます。それから池田の方です。向こう側が香川県です。五剣山、屋島が見えます。そして、釈迦堂です。



ここは中山の棚田のずっと上の方です。こんな感じで遍路道が通っています。宝生院の真柏は有名です。そして、行者堂。ここが結願の札所になります。このように1週間かけて歩くイベントがあります。



現在の小豆島遍路をまとめてみます。どのようなスタイルがあるかと言いますと、1 番目のマイクロバスによる巡拝。これは巡拝団体による伝統的な遍路ということになります。かつては何台もの大型バスで競争のようにしてお参りするということがあったようです。これがどんどん縮小して、今では数人のお遍路さんがマイクロバスで行くようになっていきます。次に、今紹介した大師を偲ぶ遍路行ですね。それから、小豆島ふれあい徒歩大巡行。これも、もう 20 年ほどになると思いますけれども、霊場会が主催するもので、小豆島を 8 つのコースに分けて、1 日お遍路をするというものです。これも結構賑わっています。それから、新しいスタイルのもので女子遍路。女の人は歩き遍路をしたいのだけれども、一人で行くのは怖い。そのような人を案内しますというイベントです。大変な人気で、募集するとすぐ満杯になるそうです。それから、卒業遍路。高校生、中学生などに「卒業をきっかけにしませんか」というお遍路です。これも 2〜3 年ほど前から始まっておりまゝ。あと、個人遍路。このような遍路は「イベントの企画があって、その呼びかけに人が集まって来るという新しいスタイルの遍路」だと思います。こういったお遍路がだんだん起きてきているということです。

18. 現代の小豆島遍路

- ・マイクロバスによる巡拝(巡拝団体による伝統的遍路)
- ・大師を偲ぶ遍路行(毎年4月16日〜22日)
- ・小豆島ふれあい徒歩大巡行(5月と9月に8コースに分かれて実施)
- ・女子遍路
- ・卒業遍路
- ・個人遍路

小豆島遍路の現状を危機と対策ということとまとめてみます。巡拝団による遍路が衰退していく、これは札所寺院にとって大変な打撃です。収入面でも大打撃。それから、長年続いてきた柴燈護摩が中止になったところもあります。札所寺院の苦悩ということですが、あるお寺のご住職の話ですが「息子が 3 人いるけれども、誰も後を継がない。

19. 小豆島遍路の現状:危機と対策

- ・巡拝団による遍路の衰退
- ・常光寺・碁石山の柴燈護摩中止(一昨年)
- ・札所寺院の苦悩
- ・熱意のある若手住職の登場
- ・女子遍路、卒業遍路など遍路の活性化をめざすグループあり
- ・新たな信者獲得をめざして活動する僧侶のグループあり
- 〜小豆島遍路にも「地縁的組織」から「ネットワーク」への転換の波

い。皆出て行って帰って来ない。自分が辞めたら、もう自分の代で終わりだ。お寺は隣のお寺に任せようかと思っている」と言っておられました。大変厳しい面もあるようです。

そのような中で、熱意のある若手住職も登場しています。お寺に生まれて後を継ぐということだけでなく、一般の家庭に生まれてお坊さんになりたいという人達も出てきています。そのような人達が新しい企画を始めておられます。先ほどの女子遍路や卒業遍路などです。このような若手のお坊さん達の新企画が動き出しています。それから、大正時代に信者を増やしたことに習って、自分達も出て行って信者獲得を目指そうという住職さんたちもおられます。そういったことで、「小豆島遍路にも地縁的組織からネットワークへの転換の波が来ているのではないか」と思っています。ですから、かつては鳥取誠心会や加古川巡拝団など農村の地縁的な関係から出てくる団体が巡拝していたのですが、今は情報発信して、

「来て下さい」ということで、即席の団体ができて歩くなどというように変わってきています。そういう意味では、「このような新しい動きが将来の希望ではないか」と感じております。

最後に、私のゼミの学生と一緒に小豆島遍路をしてきたこととお話します。10年続けたので、100人以上を連れて行ったことになります。まだ若い人は遍路に興味がありませんけれども、将来の種蒔きということです。

それから、小豆島の遍路道を整備する人達がいらっしゃいます。勉強がてら、その方々のお手伝いに行くというようなことも毎年やっておりました。

また、学生達自身が他の学生にも呼び掛けて1日お遍路のイベントをしました。それには、地元の主婦の方々も参加していただきました。

20. 付録:小豆島遍路フィールドワーク
香川大学学生と小豆島遍路(2009)



21. 小豆島遍路道整備(2009)



22. 学生主催の小豆島遍路(2010)



それから、瀬戸内国際芸術祭の時には中山の棚田の所で、瀬戸芸で来られたお客様に棚田を紹介するようなこともやりました。また、エッカード大学からの研修生が香川大学教育学部に来ているのですけれども、お遍路をしたいとのことでしたので、小豆島に連れて行きました。小豆島遍路は、かつてのように大賑わいすることはもうないかと思いますが、なんとかこれからも続いていくのではないかと期待しております。

23. 小豆島ミニ遍路体験(瀬戸芸2013後援事業 香川大学プロジェクト)



24. エッカード大学と香川大学のお遍路(小豆島2014、国分寺道2015)



以上で話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

[本城]

大賀先生、ありがとうございました。小豆島遍路があるということを知っていても、詳しく中身を知る機会がなかなかありませんでしたが、今日は大賀先生のお話を伺い、その中身を知ることができました。また、歴史や現在の問題についても話をさせていただきました。

それでは、ご質問がございましたらお願いします。

[一井様]

一井ですけど、小豆島遍路に連れて行った時に、学生の印象はどのようなでしたか。

[大賀]

そうですね。一緒に歩きましたので、仲良くなるという感じでしょうか。友達どうしもそうですし、私との関係もそうですけれども、信仰というよりはスポーツ感覚でしょうか。楽しそうです。ですから、今のお遍路さんも信仰・観光・健康とか言っていますけれども、どちらかと言うと、スポーツ感覚、それから運動不足解消でしょうね。そんな感じです。あと、四国の文化を学ぶといったことでしょうか。先ほどの卒業遍路もそうですけれども、島の子供達も知らないのですね。小豆島にたくさんお遍路さんが来ているのだけれども、どういうものか良く知らない。だから、そのような文化があることを学ぶのに興味があるようです。香川大学の学生達もそんな感じでしょう。四国の文化を勉強する。運動不足を解消する。そのような感じでした。

[一井様]

ヨーロッパにも巡礼の道がありますよね。そこに行ったことがあるのですけれども、実際に見てみますと、教会などに立ち寄る人はほとんどいないですね。日本の遍路の場合はお寺を参りますけれども、その意識とはどういうものなのでしょう。実際にお寺に行って、本当の意味でのお参りをしているということでしょうか、それとも先生が言われたように、観光とか健康維持ということから来ているのでしょうか。その辺はいかがですか。

[大賀]

かつてのお遍路はやはり信仰の意識が大きかったのでしょうか。信仰があって、大師講というものがあってお参りに行く。それが今では大師信仰というようなものがなくなってきたのではないのでしょうか。小豆島遍路が盛んだった 1970 年代に働き盛りだった人は戦前の教育を受けた人達なのです。一方、我々のように戦後教育を受けた者は非宗教的な人間になっています。ただ、人間には宗教レベルというものがありますよね。そこがなくならないので、それがスピリチュアルになっていると思うのです。人生には苦難というか、道に迷うと

かということがあるので、例えば、そのような時に遍路に行く。かつてのように宗教とか信仰ではないのです。ただ、心の旅をされているのです。奥さんを亡くしたとか、リストラで職を失ったとか、そういう人が小豆島遍路にも四国遍路にも来ています。その意味で、私は遍路ではなくスピリチュアリズムと言っているのです。

[一井様]

ありがとうございました。

[本城]

他にございませんでしょうか。

[多田]

センター長の多田です。僕もあまり島遍路のことを知らないのですが、既に江戸時代から始まっていて、昭和初期にはかなりの人が来ていたということですが、それだったら、そういう人達はどのような所に宿泊していたのでしょうか。こちらでしたら、例えば、香川大学農学部近くの長尾寺の辺りや、私が住んでいるさぬき市の志度寺の辺りには遍路宿と言われたような跡形があります。ところが、小豆島ではそのようなものを見たことはありません。昔は小豆島にも遍路宿と言われるものがあつたのでしょうか。

[大賀]

はい。少し古い所が木賃宿ですよ。米を焚いてもらい、その燃料代だけを払うというような木賃宿です。今のお遍路さんは綺麗にしていますけれども、昔は汚れていてお遍路お断りという宿が多かったのです。そのような人達は木賃宿のような貧しい宿に泊まっていた。荻原井泉水の遍路日記に出てきますけれども、本当に貧しい木賃宿がたくさんあった。それこそ橋の下とかで寝泊まりするようなことも結構あったみたいです。遍路というものは本来そういうものだと思うのですが、今は1泊7千円から8千円でお刺身と天ぷら付きですよ。贅沢遍路になってきています。

[多田]

ただ、スライドで出されていた昭和初期の写真などを見ますと、かなりの数の人が来ているわけだから、十分商売として成り立つのではないかという気がしますけれども。

[大賀]

歩き遍路の時には小豆島にも遍路宿が至る所にありました。それが戦後になってバスや車による遍路になり、あまり宿泊せずに廻れるようになりました。だから、今では土庄や福田、安田辺りの3か所程に集約されてきています。少し前まであちらこちらにあったのです。

けれども、それがどんどん潰れているという状況です。

[多田]

ありがとうございました。

[本城]

他にご質問、ございませんでしょうか。

では、私からの質問です。昔の小豆島遍路は7日間ほどかけて回っていたという話でしたけれども、篠栗霊場はどのくらいで回っているのでしょうか。

[大賀]

篠栗は2泊3日ぐらいでしょうか。

[本城]

それにしても谷底にずいぶん旅館がありますよね。電車から見えますが、それが潰れているのか、潰れていないのかも分かりませんが。

[大賀]

篠栗だと福岡にも近いので、お遍路さんだけではないのでしょうか。四国もそうなのですが、遍路だけで食べて行けるような宿はあまりないですね。だから、いろいろなイベントなどでお客様が埋まるようなことをやっていると思います。

[本城]

ありがとうございました。それでは時間がまいりました。大賀先生どうもありがとうございました。